

2010 年度 国際学部 留学の手引き

2010

School of International Studies

Study Abroad Guide

関西学院大学 国際学部



Be a world citizen who renders service to humanity.

目次

I	はじめに	1
	1. 本冊子の使い方	
	2. 国際学部生の留学	
II	留学プログラム紹介	2
	1. 短期留学	
	2. 中期留学	
	3. 長期留学(交換留学)	
	4. 長期留学(認定留学)	
	5. その他の留学・国際教育プログラム	
III	留学に関する奨学金	7
	1. 国際学部留学奨励金・留学奨学金	
	2. その他の学内奨学金	
	3. 学外奨学金	
IV	留学にむけて ～計画と準備～	11
	1. ロードマップ ～4年間の学生生活と留学～	
	2. 年間募集・選考スケジュール	
V	外国語の学習と試験対策	15
	1. TOEFL について	
	2. その他の外国語検定試験について	
	3. 学習サポート(参考書等の利用・貸出)について	
	4. 英語で行う専門科目について	
VI	留学体験記	19
	1. CIEC 報告書から	
	2. 国際学部教職員インタビュー(留学体験談)	
VII	Q&A ～留学に関する質問とその回答～	27
	1. Q&A ～留学に関する質問とその回答～	
VIII	その他・備考	31
	1. 事前・事後講義	
	2. キャンパス内での国際交流	
	3. TOEFL スコア換算表	
	4. リンク集	
	5. 備考	

I はじめに

1. 本冊子の使い方

本冊子「国際学部留学の手引き」は、国際学部の学生が海外留学を実現させるための手引き（案内書）です。

国際学部の学生は、原則として2年生のときに短期留学・中期留学・長期留学のいずれかに参加しますが、国際学部には国際学部独自の留学プログラムがあるわけではなく、本学国際教育・協力センター（以下CIEC）で全学部の学生を対象に実施されるプログラムに参加します。そのため、留学を考える際は、本冊子とともに、CIEC発行の「国際教育プログラム募集要項」や「2011-2012 交換留学募集要項」を熟読してください。（なお、各留学についての質問や留学に関する全般的な相談・手続きも、基本的にはCIECで行うことになります。）

2. 国際学部生の留学

国際学部の学生は、英語、中国語、朝鮮語等の外国語運用能力を育成し、異文化に対する感受性と理解を深めるため、原則として2年生のときに短期留学（約1ヶ月）、中期留学（約4ヶ月）、長期留学（約1年もしくは1セメスター）のいずれかに参加します。国際学部生が「大学時代の海外留学」という貴重な経験を通して、高い外国語運用能力や専門性、異文化間理解能力を身につけ、「世界市民」として国内外を問わず活躍できる人材になってほしいと考えています。

なお、国際学部の留学の特長は、以下のとおりです。

【国際学部の留学の特長】

1. 多様な留学プログラム

本学の多様な留学プログラム・留学制度を活用し、留学先・留学期間・留学内容等、学生一人ひとりの能力と目的に沿った留学を可能にします。

2. 手厚い留学支援体制・サポート

本学全体の留学支援体制に加え、国際学部独自の留学サポート（ガイダンス、事前・事後講義、留学中のサポート等）を実施し、学生の安心で充実した留学を応援します。

3. 留学前後の重点的な言語教育

国際学部の重点的な外国語教育（第1外国語の授業や英語で行う専門科目等）により、留学前、留学中、留学後に継続して外国語運用能力を伸ばすことが可能です。

4. 国際学部独自の留学補助金

国際学部独自の留学補助金として、「国際学部留学奨励金」を原則として短期留学・中期留学・長期留学に参加する国際学部生全員に支給します。（短期留学：15万円、中期留学：40万円、長期留学1年間：60万円を支給。）

このように、国際学部はみなさんの海外留学を強く応援しています。国際学部の留学の特長を存分に生かして、一人ひとりが是非「充実した海外留学」を目指してください。

また、国際学部生は共に留学を目指す仲間です。留学の準備や留学生活にはもちろん厳しさもありますが、お互いを励ましあって、海外留学、そしてその先にある「世界市民」への道を共に歩んでいきましょう。

Ⅱ 留学プログラム紹介

国際学部では、原則として2年生のときに短期留学・中期留学・長期留学のいずれかに参加します。本章の情報を参考にして、各自の留学を目指すかを検討してください。

1. 短期留学

短期留学は、夏季休暇または春季休暇を利用して、約1ヶ月間の集中的な外国語研修を行うプログラムです。研修校はいずれも外国語教育に定評のある本学の協定大学で、現地での集中的な外国語学習や、留学先の人々との交流、フィールドトリップ等のさまざまな活動を通して、外国語運用能力・異文化間理解能力を向上させます。「海外での生活を体験してみたい」、「留学に興味はあるけど、語学力に自信がないので、まずは気軽に海外に出てみたい」という方にお勧めのプログラムです。

1. 2011年度短期留学 留学期間・留学先 (予定)

(1) 春学期開講分

留学期間： 2011年8～9月の間の約1ヶ月間

留学先： トロント大学 (カナダ)、クィーンズ大学 (カナダ)、オックスフォード大学 (イギリス)、吉林大学 (中国)、延世大学 (韓国)

(2) 秋学期開講分

留学期間： 2012年2～3月の間の約1ヶ月間

留学先： トロント大学 (カナダ)、ニューサウスウェールズ大学 (オーストラリア)、スターリング大学 (イギリス)

*留学期間や留学先は2010年4月時点の予定であり、今後変更の可能性があります。また、各留学先の参加者が定員に満たない場合や、安全対策上の理由等により、プログラムが不開講となる場合があります。

2. 科目名・単位認定 (予定)

留学科目「英語短期留学TRT (3単位)」、「英語短期留学QUE (3単位)」、「英語短期留学OXF (3単位)」、「英語短期留学STL (3単位)」、「英語短期留学NSW (4単位)」、「中国語短期留学 (3単位)」、「朝鮮語短期留学 (3単位)」として開講されます (各科目の履修基準年度：2年生) (TRT：トロント大学、QUE：クィーンズ大学、OXF：オックスフォード大学、STL：スターリング大学、NSW：ニューサウスウェールズ大学を意味します)。(今後秋学期開講分の「英語短期留学TRT」「英語短期留学STL」の単位数は4単位に変更される予定です。)

修得した単位は、第1外国語初級の単位として算入されます。その際、春学期開講 (8～9月出発分) の短期留学科目の単位 (3単位) は、2～4年次の秋学期に開講される「短期留学生特別科目 (仮称)」の単位 (1単位) と合わせて、第1外国語ⅢまたはⅣの科目の単位 (4単位) に置き換えることができます。秋学期開講 (2～3月出発分) の短期留学科目の単位 (4単位) は、そのまま第1外国語ⅢまたはⅣの科目の単位に置き換えることができます。

3. 費用 (予定)

留学にかかる費用は、留学先や期間によって異なり、為替レートによっても変動します。あくまで概算ですが、短期留学の参加費は2010年4月時点で以下のとおり見込まれています。

(1) 英語短期留学：約45～65万 (予定)

(2) 中国語・朝鮮語短期留学：約30万 (予定)

*それぞれ授業料・寮費またはホームステイ費・往復旅費、海外保険料等を含みます。

4. 奨学金

原則として短期留学に参加する国際学部生全員に、国際学部留学奨励金（15万円）を支給します。（国際学部留学奨励金・留学奨学金についての詳細は本冊子 P7 を参照。）

5. 2011 年度 募集要項

2011 年度の短期留学の募集要項は、現時点で未定です。2011 年 4 月に CIEC で発行予定の 2011 年度「国際教育プログラム募集要項」でご確認ください。

6. その他の注意事項

このプログラムは、CIEC で全学部の学生を対象に募集・実施されますが、他学部生に対しては「トロント大学英語研修」「蘇州大学中国語研修」等の外国語研修プログラム（1 年生から参加可能）として募集・実施されます。そのため、国際学部生も 2010 年 8～9 月に実施される「トロント大学英語研修」、「クイーンズ大学英語研修」、「オックスフォード大学英語研修」、「蘇州大学中国語研修」や、2011 年 2～3 月に実施される「ニューサウスウェールズ英語研修」、「トロント大学英語研修」、「スターリング大学英語研修」に参加することはできますが、その場合、修得した単位は国際学部の第 1 外国語の単位に算入されず、国際学部留学奨励金も適用されないため、注意が必要です。（本冊子 P28 「①留学全般に関する Q&A」の 9 「1 年生のときに短期留学・中期留学・長期留学に参加することはできますか？」の回答を参照。）

2. 中期留学

中期留学は、2 年生の春学期もしくは秋学期の間に、約 4 ヶ月間の集中的な外国語研修を行うプログラムです。研修校はいずれも外国語教育に定評のある本学の協定大学で、現地での集中的な外国語学習や、留学先の人々との交流、フィールドトリップ等のさまざまな活動を通して、外国語運用能力・異文化間理解能力を向上させます。短期留学よりも長い期間留学することで、語学力をさらに向上させ、現地の文化や社会についての理解をより深めたいという方にお勧めのプログラムです。

1. 2011 年度中期留学 留学期間・留学先（予定）

(1) 春学期開講分

留学期間： 2011 年 3～9 月の間の約 4 ヶ月間

留学先： トロント大学（カナダ）、マウントアリソン大学（カナダ）、クイーンズ大学（カナダ）、スターリング大学（イギリス）、延世大学（韓国）

(2) 秋学期開講分

留学期間： 2011 年 9～1 月の間の約 4 ヶ月間

留学先： トロント大学（カナダ）、マウントアリソン大学（カナダ）、クイーンズ大学（カナダ）、スターリング大学（イギリス）、吉林大学（中国）

*その他、本学の中期留学にはフランス語中期留学（秋学期開講、留学先：リヨン第 2 大学）もありますが、国際学部の中期留学は原則として「英語中期留学」、「中国語中期留学」、「朝鮮語中期留学」のことを指します。（フランス語中期留学に参加することはできますが、修得した単位は第 1 外国語初級の科目に算入されず、国際学部留学奨励金も適用されないため、注意が必要です。）

*留学期間や留学先は 2010 年 4 月時点の予定であり、今後変更の可能性がります。また、各留学先の参加者が定員に満たない場合や、安全対策上の理由等により、プログラムが不開講となる場合があります。

2. 参加資格 (予定)

- (1) 原則として学部2年生(申し込み時は1年生)
- (2) 第1学年度必修の当該外国語科目(English I・II、Chinese I・II、Korean I・IIなど)の単位をすべて修得している者および修得見込みの者(2010年度秋学期終了時点ですべて修得できなかった場合は参加決定が取り消されます。)
- (3) TOEFL ITP: 450~549点、もしくはTOEFL iBT: 45~78点のスコアを有する者(英語中期留学の場合)
- (4) 事前研修会等に参加できる者

3. 科目名・単位認定 (予定)

留学科目「英語中期留学 MTA (13 単位)」、「英語中期留学 TRT (12 単位)」、「英語中期留学 QUE (12 単位)」、「英語中期留学 STL (12 単位)」、「中国語中期留学 (16 単位)」、「朝鮮語中期留学 (16 単位)」として開講されます(各科目の履修基準年度:2年生)(MTA:マウントアリソン大学、TRT:トロント大学、QUE:クィーンズ大学、STL:スターリング大学を意味します)。

修得した単位は、第1外国語初級の単位として算入されます。

4. 費用 (予定)

留学にかかる費用は、留学先や期間によって異なり、為替レートによっても変動します。あくまで概算ですが、中期留学の参加費は2010年4月時点で以下のとおり見込まれています。

- (1) 英語中期留学:77万円~120万円(予定)
- (2) 中国語・朝鮮語中期留学:約60万円(予定)
 - *それぞれ授業料・寮費またはホームステイ費・往復旅費、海外保険料等を含みます。
 - *なお、中期留学期間中であっても、本学学費の納入が必要です。

5. 奨学金

原則として英語・中国語・朝鮮語の中期留学に参加する国際学部生全員に、国際学部留学奨励金(40万円)を支給します。ただし、CIECで全学部の学生を対象に募集・支給する「中期留学奨学金」と重複して受給することはできません。(国際学部留学奨励金・留学奨学金についての詳細は本冊子P7を参照。)

6. 2011年度 募集要項

2011年度の中期留学の募集要項やプログラムの詳細は、現時点では未定です。2010年11月にCIECで発行予定の2010年度「国際教育プログラム募集要項PART II」でご確認ください。

7. その他の注意事項

このプログラムは、CIECで全学部の学生を対象に募集・実施されますが、国際学部生が留学科目「英語中期留学 MTA (13 単位)」等を履修して留学に参加するのに対し、他学部生は英語科目「インテンシブ・イングリッシュ・イン・カナダ I・II・III」等を履修して留学に参加します。

なお、2010年4月にCIECで発行される「国際教育プログラム募集要項」等では、英語中期留学の留学先はマウントアリソン大学のみとなっていますが、2011年度の留学にむけて、新規の留学先大学(トロント大学、クィーンズ大学、スターリング大学)や、新規プログラムとして中国語中期留学(留学先:吉林大学)、朝鮮語中期留学(留学先:延世大学)を追加する予定です。2011年度の中期留学の詳細は2010年11月にCIECで発行される「国際教育プログラム募集要項PART II」でご確認ください。

3. 長期留学（交換留学）

交換留学とは、本学からの推薦に基づいて、本学と学生交換協定を締結している海外の大学で1学年間もしくは1学期間（1セメスター間）留学する制度です。短期留学や中期留学など、集中的な外国語の研修や異文化体験を主な目的としたいわゆる語学留学とは異なり、原則として留学先大学で一般の授業（正規開講科目）を履修し、各自の専門を深めます。（ただし、中国語圏・朝鮮語圏の大学や、各留学先大学が必要と認めた場合には語学コースを履修しなければならない場合があり、正規開講科目の受講が制限される場合もあります。）

交換留学では、専門知識や高度な外国語運用能力を身につけるとともに、異文化を深く理解し、自己や自国を再認識することを目的としています。

1. 留学先

本学と学生交換協定を締結している海外協定校（約60校：2010年4月現在）の中から選択・志望します。（出願時に第1希望の留学先大学を、最終英語スコア提出日・留学希望大学届提出日に第1～第3希望の留学先大学を選択・提出します。）2011～2012年度の交換留学の留学先一覧は、CIEC発行の「2011～2012 交換留学募集要項」でご確認ください。

2. 単位認定

交換留学で修得した単位は、審査の上、国際学部の授業科目（国際基礎科目、国際専門科目等）の単位として認定されます。（帰国後、指定する期日までに単位認定の手続きを行う必要があります。また、科目によっては国際学部の単位として認定できないものもあるので、交換留学中に履修する授業科目に注意してください。）

3. 費用

学生交換協定により、本学に学費を納入すれば、留学先大学へ学費を納入する必要はありません（一部留学先を除く）。渡航費、生活費、海外保険料、その他留学に係わる経費はすべて自己負担となります。

月々の生活費は為替のレートや各自の生活様式によって異なりますが、一般的に欧米圏では月約8～12万円、中国では月約4～5万円、韓国では月約7～8万円が必要となります。

4. 奨学金（予定）

(1) 国際学部留学奨励金・留学奨学金

原則として長期留学に参加する国際学部生全員に国際学部留学奨励金（1学年間：60万円、1セメスター間：30万円）を支給する予定です。また、各年度の長期留学（交換留学・認定留学）参加者のうち、主に学業成績が優秀な学生（上位3名程度を予定）には、国際学部留学奨励金とは別に、国際学部留学奨学金（1学年間40万円、1セメスター間：20万円）を支給する予定です。（国際学部留学奨励金・留学奨学金についての詳細は本冊子P7を参照。）

(2) その他の学内奨学金

CIECで全学部の学生を対象に募集される、交換留学関連の奨学金に申し込むことができます。選考においては学業成績が重視されます。詳細はCIEC発行の「国際教育プログラム募集要項」・「2011～2012 交換留学募集要項」や、CIECの事務室にてご確認ください。なお、原則として国際学部留学奨励金・留学奨学金との重複受給はできませんので、注意してください。

5. 出願資格

- (1) 2010年度の春学期末までに16単位以上の単位を修得している者、または修得見込みの者（国際学部生）。
- (2) 学業成績が概ね良好の者。

- (3) 海外の大学で長期間生活し、外国語で行われる開講科目を受講できるだけの語学力および優れた適応能力を有する者。
- (4) 英語による受験者は、出願時に TOEFL ITP 480 点または TOEFL iBT 54 点以上の点数を有すること。

6. 2011-2012 年度募集要項

2011-2012 年度の募集要項（各協定校の留学期間・募集時期・募集人数・要件等）や出願手続き・選考方法等については、CIEC発行の「2011-2012 交換留学募集要項」でご確認ください。2011-2012 年度の交換留学は「第1期募集」と「第2期募集」に分けて募集が行われます。各募集時期に応募できる留学先と留学期間を「2011-2012 交換留学募集要項」等で確認のうえ、「第1期募集」もしくは「第2期募集」に出願してください。なお、2011年2~4月に開始する交換留学など、春学期出発分の交換留学は、「第1期」でしか応募できないので注意が必要です

また、交換留学に少しでも興味のある方は、4月12日（月）、13日（火）、14日（水）の12:45~13:25に西宮上ヶ原キャンパスG202教室で開催される「第1期交換留学募集説明会」に参加してください（「第2期交換留学募集説明会」は5月24日（月）、25日（火）の12:45~13:25に西宮上ヶ原キャンパスG202教室で開催予定）。

7. その他の注意事項

交換留学に参加するためには、出願資格を満たすとともに、学内の選考に合格し、交換留学推薦者とならなければなりません。選考においては、各協定大学が要求するTOEFL等のスコアや、学業成績（GPA）の基準を満たすことが必要になります。（英語受験の場合、TOEFLのスコアは目安としてTOEFL iBTで79以上、TOEFL ITPで550以上のスコアが必要になります。）そのため、交換留学への参加を考えている方は、まずは募集説明会に参加し、早めの留学計画・準備や、学業成績・TOEFL等の対策を始めてください。

4. 長期留学（認定留学）

認定留学とは、本学が募集・実施するプログラムではなく、学生自らが留学する大学を選択・出願（個人手配）して、留学先大学から入学許可を得た場合に、本学がそれを「認定留学」と承認したうえで、1学年間もしくは1セメスター間留学する制度です。個人手配の留学が「認定留学」と認められるためには、留学前の本人による申請後、本学が①留学先大学が学位授与権を持つ大学であること、②正規課程への入学であること、③本人の教育上有益であることなどを審査・判断するというプロセスが発生します。

留学中の学修や、単位認定等については交換留学の場合と同じですが、学費は本学と留学先大学の両方に納入しなければなりません。ただし、認定留学の参加者は認定留学助成金を申込・受給することが可能（国際学部留学奨励金・留学奨学金との重複受給可能）なので、交換留学では留学できない大学で専門を深めたい方や、独自で個性のある留学がしたいという方は、検討してみてください。

なお、認定留学の詳細や手続きについては、CIECにて確認・質問・相談を行ってください。

5. その他の留学・国際教育プログラム

短期留学・中期留学・長期留学以外にも、国際学生セミナー、海外インターンシップ、国連学生ボランティア等の留学・国際教育プログラムに参加することが可能です。英語・中国語・朝鮮語の短期留学・中期留学や長期留学以外のプログラムに参加する場合、原則として、各プログラムで履修した単位は、自由履修科目として国際学部の卒業必要単位に算入されます。

なお、国際学生セミナー、フランス語中期留学、国連学生ボランティア等のプログラムについては国際学部留学奨励金・留学奨学金は適用されませんので、注意が必要です。（国際学部留学奨励金・留学奨学金についての詳細は本冊子 P7 を参照。）

各プログラムの概要・詳細については、CIEC「国際教育プログラム募集要項」でご確認ください。

Ⅲ 留学に関する奨学金

1. 国際学部留学奨励金・留学奨学金

国際学部独自の留学補助金として、「国際学部留学奨励金」を原則として短期留学・中期留学・長期留学に参加する国際学部生全員に支給します。また、各年度の長期留学参加者のうち、主に学業成績が優秀な学生（上位3名程度を予定）には、国際学部留学奨励金とは別に、「国際学部留学奨学金」を支給します。

各留学における国際学部留学奨励金・留学奨学金の支給額、諸注意は以下のとおりです。

【国際学部留学奨励金・留学奨学金 支給額一覧表】

留学種別	留学奨学金	留学奨励金
短期留学（英語・中国語・朝鮮語）	—	15万円
中期留学（英語・中国語・朝鮮語）	—	40万円
海外インターンシップ	—	40万円
英語中期留学プラス	—	20万円
長期留学（1学年間）	40万円（成績優秀者）	60万円
長期留学（1 Semester間）（予定）	20万円（成績優秀者）	30万円

* 国際学部留学奨学金・留学奨励金は共に在学中に一人一回の申し込み・適用となります。

* 原則として、一回の留学においてその他の留学関連の奨学金と重複受給することはできません。
(認定留学助成金や一部の学外奨学金との重複受給は可能。)

* 上記以外のプログラム（国際学生セミナー、フランス語中期留学、国連学生ボランティア等）には適用されませんので、注意してください。

なお、国際学部留学奨励金・留学奨学金は、国際学部生のみを対象に募集されるので、国際学部留学奨励金・留学奨学金についての質問・相談は、以下の「国際学部留学奨励金・留学奨学金規程（抜粋）」と、本冊子 P30 「【③奨学金に関する Q&A】」を参照のうえ、国際学部事務室で行ってください。（国際学部留学奨励金・留学奨励金の募集は、今後国際学部の掲示板等でご案内します。）

【国際学部留学奨励金・留学奨学金規程（抜粋）】

（目的等）

第1条 国際学部在籍し海外留学に参加する学生を経済的に支援し、勉学を奨励することを目的として国際学部留学奨学金（以下「奨学金」という。）及び国際学部留学奨励金（以下「奨励金」という。）を設定する。

（資金）

第2条 奨学金及び奨励金の資金は学院の経常収入をもってこれにあてる。

（資格）

第3条 奨学金を受ける者の資格は、過去に奨学金及び奨励金を受給していない者で、次の各号の一とする。

- 1 交換留学の参加者のうち、人物、学業成績とも優秀であると国際学部教授会が認めた者
- 2 認定留学（2学期間）の参加者のうち、人物、学業成績とも優秀であると国際学部教授会が認めた者
- 2 奨励金を受ける者の資格は、過去に奨学金及び奨励金を受給していない者で、次の各号の一とする。
 - 1 短期留学（語学研修）の参加者
 - 2 中期留学の参加者
 - 3 クイーンズ大学海外インターンシップ・プログラムの参加者
 - 4 中期留学プラスの参加者
 - 5 交換留学の参加者

- 6 認定留学（2学期間）の参加者
- 7 認定留学（1学期間）の参加者
- 3 第2項第1号における短期留学は、英語、中国語及び朝鮮語の短期留学とする。第1項第1号及び第2項第2項における中期留学は、英語、中国語及び朝鮮語の中期留学とする。

（金額及び交付）

第4条 奨学金及び奨励金の留学種別ごとの金額は別表のとおりとし、一括して交付する。

- 2 中期留学と中期留学プラスは重複して交付することができる。
- 3 前条第1項第1号、2号及び第2項第5号、6号に該当する場合、奨学金と奨励金は1回の留学において重複して交付することができる。
- 4 前条第2項第2号、3号に該当する場合、1回の留学において国際教育・協力委員会が所管する中期留学奨学金と重複して交付しない。
- 5 前条第2項第3号に該当する場合、1回の留学において兵庫・アジア太平洋大学間交流ネットワーク（HUMAP）留学生交流推進制度奨学金と重複して交付しない。
- 6 前条第1項第1号及び第2項第5号に該当する場合、1回の留学において佐伯海外留学支援奨学金、交換留学奨学金、短期留学推進制度奨学金、兵庫・アジア太平洋大学間交流ネットワーク（HUMAP）留学生交流推進制度奨学金と重複して交付しない。
- 7 前条第1項第2号及び第2項第6号、7号に該当する場合、認定留学助成金と重複して交付することができる。
- 8 前条第1項第1号、2号の交付対象者は、当該年度あわせて3名以内とする。

（期間）

第5条 奨学金及び奨励金を支給する期間は、留学に参加する当該年度とする。

（申請）

第6条 奨学金及び奨励金の支給を受けようとする者は、所定の書類を国際学部長に提出しなければならない。

（採用）

第7条 奨学金及び奨励金の採用は、国際学部教授会で決定する。

（交付の停止及び返還）

第8条 次の各号の一に該当する場合、奨学金及び奨励金の交付を停止する。

- 1 奨学金及び奨励金を辞退したとき
- 2 留学を辞退したとき
- 3 国際学部教授会が不相当と認めたとき
- 2 奨学金及び奨励金の交付後に前項第2号、3号に該当する場合、奨学金及び奨励金の返還を求めることができる。

（所管）

第9条 この規程に関する事項は国際学部教授会が所管し、事務は国際学部事務室において行う。

（規程の改廃）

第10条 この規程の改廃は、国際学部教授会及び大学評議会の議を経て理事会で決定する。

附 則

- 1 この規程は、2010年(平成22年)4月1日から施行する。

2. その他の学内奨学金

その他の留学関連の学内奨学金（学内で募集を行う奨学金）として、CIEC で全学部の学生を対象に募集される奨学金に申し込むことができます。CIEC で募集される学内奨学金は、原則として、一回の留学において、国際学部留学奨励金・留学奨学金と重複受給することはできませんが、中には支給額が大きい奨学金もあるので、CIEC 発行の「国際教育プログラム募集要項」や「2011-2012 交換留学募集要項」を参考にして、どの留学に参加して、どの奨学金に出願・申し込みをするか、各自で検討してください。

なお、その他の学内奨学金は、全学部の学生に募集されるため、各奨学金についての質問・相談・手続きは原則として CIEC で行うこととなります。

3. 学外奨学金

留学関連の学外の奨学金として、日本政府や外国政府、その他地方自治体や民間団体が募集するものがあります。一般的に応募条件や選考が厳しく、一回の留学に対して、国際学部留学奨励金・留学奨学金等と重複受給できないものもありますが、まずは以下のリンク集や学外奨学金例、CIEC 掲示板の案内等を参考にして、各自で募集情報を調べてみると良いでしょう。

学外奨学金は、一般的に支給額が大きく、「〇〇奨学金を受給して留学した」という経歴は将来の進路への強みにもつながるので、各自で最新の情報・スケジュール等を確認のうえ、積極的に応募しましょう。

【学外奨学金全般に関する情報（リンク集）】

- 日本学生支援機構（JASSO）「海外留学のための奨学金」のページ
http://www.jasso.go.jp/study_a/scholarships.html
*留学関連の学外奨学金についての全般的な情報が掲載されています。
- 日本学生支援機構（JASSO）「海外留学奨学金パンフレット」のページ
http://www.jasso.go.jp/study_a/pamphlet_j.html
*ページ上で「海外留学奨学金パンフレット」の内容や各学外奨学金の一覧表が閲覧可能です。

【学外奨学金（例）】

1. 松本・土井アイリン海外留学助成金

対 象 : 26歳未満の宝塚市民（宝塚市内に原則として3年以上在住の者）

支 給 額 : 60万円

問合せ先 : 宝塚市 観光文化課

<http://www.city.takarazuka.hyogo.jp>（宝塚市役所 HP）

*本奨学金は、国際学部留学奨励金・留学奨学金等の奨学金と重複して受給することができます。

2. 高円宮記念クイーンズ大学奨学金

対 象 : 日本の4年制大学に在籍する2年生または3年生の日本人学生で、日本で在籍する大学から留学許可を受けた後、1年間クイーンズ大学へ留学する者（外国語要件あり）

支 給 額 : 約30,000カナダドル（学費、書籍代、住居費、生活費、往復航空券などを含む）

問合せ先 : クイーンズ大学

案 内 : カナダ大使館

<http://www.canadainternational.gc.ca/japan-japon/study-etudie/scholarships-takamado-bourses.aspx?lang=jpn>

3. 国際ロータリー第2680地区 ロータリー財団 国際親善奨学生

応募資格 : 第2680地区（兵庫県内）に原則として現住所、または在学地を有することなど（語学要件あり）

支 給 額 : 26,000ドル（通常9ヶ月）

問合せ先 : 国際ロータリー第2680地区 HP等

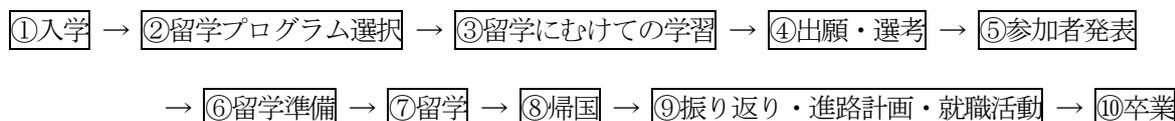
<http://dist.ri2680.org>

IV 留学にむけて ～計画と準備～

1. ロードマップ ～4年間の学生生活と留学～

大学生活は決して長いものではありません。以下のロードマップを参考に、各自が「どの留学に参加し、どのような4年間の大学生活を送りたいか」を考え、留学にむけて少しでも早く計画立案と準備を行いましょう。

【ロードマップ (モデル)】



①入学

大学生活がスタートします。国際学部留学ガイダンスに参加し、まずは本冊子やCIEC発行の「国際教育プログラム募集要項」を読み、留学についての全般的な情報を手に入れましょう。



②留学プログラム選択

自分がどの留学に参加するのかについて具体的に考え始めます。「なぜ留学したいのか」「どこで何をどれくらいの期間学ぶか」「留学を自分の将来にどう結びつけるか」などについて自己分析をして、留学の目的や動機を徐々に明確にしていき、希望する留学プログラム・留学先を決めましょう。

また、家族との相談や綿密なコミュニケーションが必要です。特に費用面についての相談を忘れずに、自分が「どの時期に、どこで、どのような内容のプログラムに参加したいのか、どれくらい費用がかかるか」について、しっかりと説明し、家族の理解を得ておきましょう。



③留学にむけての学習

留学にむけて、TOEFL等の試験対策や、学業成績(GPA)対策に励みましょう。特に、中期留学や交換留学では、TOEFLのスコアや学業成績・単位修得状況が出願資格になっていることが多いため、各プログラムや留学先で求められる要件を満たせるよう、早めの学習計画・受験計画・試験対策を行いましょう。



④出願・選考

参加したいプログラムが決まったらいよいよ出願です。CIECの募集要項等をよく読んで出願しましょう。(期日までに必要な書類、TOEFLのスコア等をそろえられるよう、早めの準備にとりかかりましょう。)

また、交換留学では、出願後、数ヶ月にわたって学内選考が行われます。面接試験等の対策を行うとともに、引き続き日々の学習（TOEFL 受験・対策や学業成績対策等）に励みましょう。



⑤参加者発表

いよいよ参加者の発表（合格発表）です。選考等の結果、参加者に選出されなかった場合は、ただちに計画を変更してその他のプログラムに申し込むか、再挑戦（次期募集への出願）にむけて、気持ちの切り替えと準備が必要です。



⑥留学準備

参加するプログラムが決まったら、ここからは出発にむけての具体的な準備が始まります。各プログラムで開催されるオリエンテーションやガイダンス、事前研修などに必ず参加して、ビザの申請や航空券・留学先宿舎の手配などの手続きをひとつひとつ進めましょう。

また、留学中の学習や帰国後の単位認定・履修（コースや研究演習クラスの選択等）、卒業後の進路についても、具体的に準備をすすめましょう。



⑦留学

健康、安全に気をつけて充実した留学生活を送ってください。また、帰国後のスケジュールや就職活動、大学院等の進学については、留学中に準備をすすめるのが良策です。さらに、留学中のトラブル回避・対処のためにも、CIEC や国際学部事務室の教職員とは、常に連絡をとれるようにしておきましょう。



⑧帰国

帰国後は、速やかに CIEC や国際学部事務室等に対して、帰国報告や単位認定等の必要手続きを行ってください。また、留学を終えて間もないこの時期に、今後の進学や就職活動等にむけて、TOEFL や TOEIC、その他の外国語検定試験を受けておくのも良いかもしれません。



⑨振り返り・進路計画・就職活動

各自で留学経験を振り返り、今後の学生生活や将来の進路にどのようにつなげるのかを考えましょう。また、一般的に 3 年生の後半からは、就職活動や国内外の大学院進学などにむけて準備が始まります。留学で得た経験を次のステップにどう生かすかについて考え、各自が納得のいく進路選択を行ってください。



⑩卒業

4 年間の学生生活や留学で得た経験を生かし、卒業後は国際性と人間性を備えた「世界市民」として、国際的なビジネス・市民社会での活躍を目指してください

2. 年間募集・選考スケジュール

2011-2012年度の各留学の募集・選考は、①交換留学（第1期募集）：2010年4月、②交換留学（第2期募集）：2010年5月、③中期留学：2010年11月、④短期留学（春学期）：2011年4月、⑤短期留学（秋学期）：2011年11月の順に開始される予定です。CIEC発行の「国際教育プログラム募集要項」や「2011-2012交換留学募集要項」で各留学の募集・選考スケジュールの詳細を確認し、まずは募集説明会に参加しましょう。

なお、中期留学には参加資格があり、交換留学に関しては出願資格や出願後の学内選考があるため、希望しても留学に参加できないことがあります。早い時期から留学計画を立て、出願に必要な語学要件（TOEFLのスコア等）や、学業成績（GPA）を満たすことが必要です。

【2011-2012年度留学 年間募集・選考スケジュール(予定)】

留学期間(例)

プログラム	開講・出発学期	2010年度											
		2010年										2011年	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
長期留学 (交換留学)	春 (第1期募集)	・募集説明会 ・出願説明会	・留学相談会 ・出願	・選考試験				留学希望 大学届提出 最終英語 スコア提出	・推薦者発表 (合格発表)				
	秋 (第1・2期募集)		・募集説明会				出願説明会	・留学相談会 出願	・選考試験			・留学希望 大学届提出 最終英語 スコア提出 ・推薦者発表 (合格発表)	
中期留学	春									募集説明会		・出願 参加者発表	
	秋												
短期留学	春												
	秋												
【備考:2010年度 TOEFL ITP 実施予定】 ・TOEFLの詳細は本冊子P15・16を参照。 ・スコアの返却には、受験日から 約3週間～5週間程度かかります。		・TOEFL ITP (試験日:4/24) (申込:~4/16) (言ゼン)	・TOEFL ITP (試験日:6/5) (申込:~5/28) (言ゼン)	・TOEFL ITP (試験日:7/31) (申込:~7/23) (生協)			・TOEFL ITP (試験日:9/11) (申込:~9/3) (生協)		・TOEFL ITP (試験日:11/6) (申込:~10/29) (生協)	・TOEFL ITP (試験日:12/4) (申込:~11/26) (言ゼン)			

V 外国語の学習・試験対策

留学の実現にむけて欠かせないもの、それは語学力です。特に、中期留学や交換留学等の出願・選考の際には、TOEFL 等のスコアが参加資格・出願資格・語学要件等になっている場合があるため、各プログラムや留学先で必要とされる外国語運用能力やスコアを満たす必要があります。

以下の外国語学習に関する情報を参考にして、早めの学習計画・受験計画・試験対策を行いまし
よう。

1. TOEFL について

TOEFL (トーフル) とは Test of English as a Foreign Language の略で、おもに英語圏の大学・大学院が、英語を母語としない学生の入学要件として課している世界規模の英語テストです。そのスコアは、英語中期留学や交換留学(英語受験)の出願・選考などにおいて利用されます。

なお、2010年4月現在、国内で受験可能な TOEFL として、①TOEFL iBT (Internet-based Test インターネット版 TOEFL テスト)、②TOEFL ITP (Institutional Testing Program 団体向けテストプログラム) があります。

1. TOEFL iBT

「TOEFL」の公的なスコアは、この TOEFL iBT で取得したスコアのことを言います。テストでは Listening、Writing、Reading、Speaking の 4 技能を総合的に測定します。会場は全国の各都市で、年 30 回程度、主に土曜日と日曜日に行われます。TOEFL iBT についての詳しい情報の確認や、受験申し込みは下記ウェブサイト (<http://www.cieej.or.jp/toefl/index.html>) で行ってください。

【TOEFL iBT の受験料と問合せ先】

受験料: Regular registration (受験日の 7 日前まで) … 200 アメリカドル

Late registration (受験日の前営業日まで) … 235 アメリカドル

問合せ先: 国際教育交換協議会 (CIEE) 日本代表部 (TOEFL について)

<http://www.cieej.or.jp/toefl/index.html>

2. TOEFL ITP

TOEFL の団体向けテストプログラムである TOEFL ITP は、過去のペーパー版 TOEFL テスト (TOEFL PBT: 日本での今後の実施は未定) で出題されたものを再利用しています。テストでは Listening、Structure、Reading の技能を測定し、スコアは公的なものではありませんが、TOEFL iBT のスコアと高い相関関係があります。また、本学の留学プログラムの中には、TOEFL ITP のスコアで出願可能なものもあります。留学を考えている学生は、まず、この TOEFL ITP を積極的に受験してみましょう。

2010 年度に西宮上ヶ原キャンパスで、計 6 回実施される TOEFL ITP のスケジュールは以下のとおりです。

【2010年度 TOEFL ITP の実施予定 (計6回)】

(1) 言語教育研究センター実施分

試験日： ①4月24日(土)(申込期間：4月5日～4月16日)

②6月5日(土)(申込期間：5月17日～5月28日)

③12月4日(土)(申込期間：11月15日～11月26日)

*申込みについての詳細は、今後CIECや国際学部の掲示板等でお知らせします。

*スコアの返却には、受験日から約3週間～5週間程度かかります。

受験料： 2900円

問合せ先： 言語教育研究センター事務室

(2) 大学生協実施分

試験日： ①7月31日(土)(申込期間：6月15日～7月23日)

②9月11日(土)(申込期間：7月26日～9月3日)

③11月6日(土)(申込期間：9月21日～10月29日)

*申込みについての詳細は、今後CIECや国際学部の掲示板等でお知らせします。

*スコアの返却には、受験日から約3週間～5週間程度かかります。

受験料： 3900円

問合せ先： 関西学院大学生生活協同組合 フォーラム店 書籍カウンター

3. TOEFL 対策講座のご案内

本学教務部生涯学習課では、TOEFL ITP の対策講座として、以下の2コースを設けています。本講座は課外講座となりますので、受講料と個別の申し込みが必要です。TOEFL 対策講座の詳細情報や申し込み手続きについては、本学教務部生涯学習課発行の「関西学院大学エクステンションプログラム講座案内2010」でご確認ください。

【2010年度 TOEFL 対策講座の関連スケジュール】

コース名： 「TOEFL 対策講座：レギュラーコース (定員40名)」

「TOEFL 対策講座：夏期集中コース (定員40名)」

*申込受付は先着順となります。

*定員に満たないときは不開講になる場合があります。

開講場所： 西宮上ヶ原キャンパス

開講日程： レギュラーコース… 4月26日(月)～6月30日(水) 毎週2回、月・水曜日

夏期集中コース… 8月23日(月)～9月8日(水) 週5回、月～金曜日(2.5週)

開講時間： レギュラーコース… 18:30～20:30

夏期集中コース… 9:30～12:30

受講料： レギュラーコース… 44,000円(在学生)(教材費を含む)

夏期集中コース… 45,000円(在学生)(教材費を含む)

申込締切： レギュラーコース… 4月20日(火)

夏期集中コース… 8月10日(火)

問合せ先： 関西学院大学 教務部生涯学習課 エクステンションプログラム受付カウンター

2. その他の外国語検定試験について

1. IELTS

IELTS (アイエルツ) とは、International English Language Testing System の略で、TOEFL と並び、おもに英語圏の大学・大学院への入学・留学の際に利用される英語テストです。

本学では、2011-2012 年度交換留学から、TOEFL に加えて IELTS Academic Module のスコアを交換留学の選考試験に利用可能になりました。IELTS Academic Module のスコアを語学要件としている大学への交換留学を希望する学生は、TOEFL 以外にも IELTS Academic Module の受験・スコア提出を検討してみるといいかもしれません。

○問合せ先： 日本英語検定協会 (アイエルツについて)

<http://www.eiken.or.jp/ielts/index.html>

2. TOEIC

TOEIC (トイーック) とは Test of English for International Communication の略で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。TOEIC や TOEIC IP (Institutional Program : 団体特別受験制度) のスコアは、各留学の出願・選考には利用されませんが、海外インターンシップの参加資格、国際学部の第 1 外国語 (英語) のクラス分け、各言語教育科目の単位認定制度、英語で行う科目等の履修資格などにおいて、利用される場合があります。

また、一般的に、3 年次以降の就職活動の際には、TOEFL・英検等の資格よりも、TOEIC や TOEIC IP のスコアが英語力を証明する重要な資格になるとされています。

○問合せ先： TOEIC (R) 公式 HP

<http://www.toeic.or.jp/>

3. 漢語水平考試 (HSK)

漢語水平考試 (HSK : Hanyu Shuiping Kaoshi の略) とは、中国政府 (教育部) による、中国語を母国語としない中国語学習者のための唯一・公認の中国語能力認定標準化国家試験です。資格は、留学プログラムの出願や留学先大学の履修条件、国際学部の言語教育科目の単位認定制度などにおいて利用される場合があります。

○問合せ先： 漢語水平考試 (HSK) HP

<http://www.jyda-ie.or.jp/hsk/top.htm>

4. 韓国語能力試験

韓国語能力試験とは、韓国教育課程評価院による、韓国語を母語としない韓国語学習者のための韓国政府 (教育科学技術部) 認定の試験です。資格は、留学プログラムの出願や留学先大学の履修条件、国際学部の言語教育科目の単位認定制度などにおいて利用される場合があります。

○問合せ先： 韓国教育財団 HP (韓国語能力試験について)

http://www.kref.or.jp/contents_shu_nouryok.html

【検定試験による言語教育科目の単位認定制度について】

検定試験による言語教育科目の単位認定制度とは、TOEFL・TOEIC やその他の外国語検定試験のスコア・資格によって、言語教育科目の単位を認定するという制度です。この制度は、みなさんの積極的な資格取得を奨励するとともに、長期留学への参加等により履修・単位修得できなかった言語教育科目（第1外国語初級・中級等の科目）を単位認定することを目的としています（本冊子 P29 「②交換留学に関する Q&A」 の2「長期留学をする場合、言語教育科目の履修に遅れが出ますか？」の回答を参照。）

なお、「検定試験による単位認定制度」の詳細や具体的な手続きについては、今後国際学部掲示板等でご案内します。

3. 学習サポート（参考書等の利用・貸出）について

高い外国語運用能力を身につけるためには、日々の自主学習が必要となります。

大学図書館2階にある視聴覚資料利用コーナーでは、ビデオ、LD、DVDなどの視聴覚資料の利用や、外国語放送の視聴が可能です。個人の資料を持ち込んで利用することもできますので、ヒアリングの学習等に利用してください。ただし、利用時間は3時間以内です。

また、G号館1階にある言語教育研究センター視聴覚室は、カセットテープ、CD、ビデオ、LD、DVD等の外国語視聴覚資料の利用・貸出のサービスを提供している他、TOEFLや外国語検定試験参考書などの利用・貸出を行っています。国際学部の資料室にも TOEFL・TOEIC の参考書等を配架しています。

これらの施設を積極的に利用して、各自留学に必要とされる外国語運用能力を身につけましょう。

4. 英語で行う専門科目について

国際学部では、第1外国語の授業（言語教育科目）の他に、英語で行う専門科目を多数開講しています。英語で行う専門科目は、国際学部2コース3領域の各専門テーマや、日本・東アジアの文化・政治・経済などについて、英語で、国際的・多角的な視点から理解を深めることを目的としています。授業では、世界各国からの外国人留学生と机を並べ、英語での講義・発表やディスカッション等を実施して、日本にいながらあたたかも海外の大学で学ぶような雰囲気を味わうことができます。

授業を履修するには、英検準1級、TOEIC 670点、TOEFL ITP525点（iBT 71点）以上のスコアが履修資格となる場合がありますが、高度な英語力を身につけたい学生、長期留学を目指す学生、留学後に継続して英語で専門科目を学びたい学生、授業を通して外国人留学生と交流したい学生などにとって、非常に有意義な機会となりますので、積極的に英語で行う専門科目を申し込み・履修してください。

VI 留学体験記

みなさんにとって、実際に留学を経験した人の声を聴くことは、留学を実現させるうえで貴重な機会・情報となるかもしれません。本章では、CIEC に保管されてある留学の報告書（抜粋）の紹介とともに、国際学部教職員（6名）のインタビュー（留学体験談）を掲載します。

1. CIEC 報告書から

CIEC では、現在留学中、または過去に留学した先輩たちの報告書が保管されています。各留学プログラムの報告書やその他のアンケート等は、CIEC にて自由に閲覧可能なので、プログラムや留学先の選択、留学準備の際に、是非実際に留学した先輩たちの“生の声”を参考にしてください。

本節では、以下に各プログラムの報告書内容（抜粋・一部改）を簡単に紹介します。ただし、今回紹介する報告書の内容はあくまでも“抜粋”であり、一部の例にしかすぎません。また、各留学プログラムの内容や感想は、留学先や留学年度・時期、個人の感覚等によって異なるので、各自で必ず正確な情報を確認してください。

*朝鮮語短期留学（語学研修）、中国語・朝鮮語中期留学は2011年度から開始される新規プログラムのため、報告書はありません。また、長期留学（認定留学）は、近年の参加者が少数のため、報告書は保管してありません。

短期留学（外国語研修）

- ・授業は週4日で9時から3時45分までとハードでしたが、ゲームやスピーキング中心のとても楽しい授業でした。（2007年度オックスフォード大学英語研修参加者）
- ・フィールドトリップは本当に楽しかったです。ミュージカルを見たり、ナイアガラの滝に行ったり、メジャーリーグを観戦したりと日本にいたらできないことがたくさんできました。（2008年度トロント大学英語研修参加者）
- ・1ヶ月という短い期間でしたが、語学はもちろん、中国の文化や食事、遊び、価値観などを沢山吸収出来ました。行って良かったと心から思える研修でした。（2008年度蘇州大学中国語研修参加者）
- ・この研修で私は多くのきっかけを得ることができたと感じています。そのきっかけを基にして今後、より勉強して中国語を使えるようになりたいと感じています。そしてまた中国に行ってみたいと思いました。（2009年度吉林大学中国語研修参加者）

中期留学

- ・カナダをはじめとする北米の文化や習慣、ライフスタイルを学べるいい機会になります。このプログラムですること全部がオススメなので、それらに果敢に挑戦する事が大事だと思います。（2009年度マウントアリソン大学英語中期留学参加者）
- ・それぞれの授業は内容が濃くて、授業の中には常に自分の考えが必要なものもあり、特に授業に対する積極性は本当に求められると実感しています。（2008年度マウントアリソン大学英語中期留学参加者）
- ・常に英語に囲まれているということもあり、授業で習う会話や単語は、すぐに日常生活に生かされます。2ヶ月目からは、英語の授業だけではなく、カナダの歴史や環境についての授業も始まるので今から楽しみにしています。（2009年度マウントアリソン大学英語中期留学参加者）

長期留学

- ・ Econ441 “The process of Economics Development” などの授業で多少の英語の困難はありましたが、大きく困るような問題は起きていません。振り返ってみて思うことは英語に多少の問題があっても留学中に乗り越えられるので、心配せずに留学に挑戦してみた方が良いということです。こちらに来てから英語と専門科目の知識を同時に伸ばすことは可能です。(2009-2010 年度ブリティッシュ・コロンビア大学交換留学参加者)
- ・ リーディングの量がやはりとても多いです。授業によりますが、毎回小テストがある授業や、最終試験のほかにも2つの中間試験といくつかのレポートやプレゼンテーションなどがある授業もあり、やはり普段から勉強していないと授業やテストについていけなくなります。(2009-2010 年度ドレイク大学交換留学参加者)
- ・ 中国人の友達には日本語ができないので、交流は困難な時もありますが、筆談を含めて、辞書を引いて頑張っています。彼らとの交流は何するにしても、中国語を使いますので、本当に勉強になります。(2009-2010 年度吉林大学交換留学参加者)
- ・ 世界各国からのたくさんの留学生との出会いがあり、インターナショナルな環境の中で、韓国文化について学べる非常に特殊な環境が整備されています。(2009-2010 年度延世大学交換留学参加者)



2. 国際学部教職員インタビュー（留学体験談）

大学時代もしくは大学院時代に海外留学を経験した6名の国際学部教職員のインタビュー（留学体験談）を紹介します。この他にも、国際学部教職員の中には留学経験者が多数いますので、オフィスアワーや授業前後の時間を利用して、担当教員等に積極的に相談に行くと良いでしょう。

1. 伊藤 正一（教授）



■プロフィール

1973年京都大学経済学部卒。台湾への留学（1973年5月15日～1974年9月1日）の後、1976年にハワイ大学大学院でM.A.（経済学）取得、1982年12月にワシントン大学大学院でPh.D.（経済学）取得、1983年1月に大阪府立大学経済学部講師となり、教授を経て、1999年より関西学院大学経済学部教授、2000年京都大学博士（経済学）取得、2008年4月より関西学院大学国際学部開設準備室・室長、2009年5月より中国経営管理学会・副会長などを経て、2010年4月から国際学部教授（学部長）。著作に、『現代中国の労働市場』（平成11年度沖永賞）、編著には、『東アジアのビジネス・ダイナミクス』（御茶の水書房）、『現代の総合商社』（晃洋書房）がある。中国経済に関するテーマを中心に多数の論文。

■留学の動機や留学先を選んだ理由・留学準備の方法を教えてください。

当初、銀行で働く予定をしていましたが、恩師から、将来中国経済は重要になるため研究者になるよう薦められ、また、台北が中国語を学ぶ環境が最も優れているという判断で、台湾に留学しました。

■留学中の様子（授業、日常生活、現地での交流状況）や印象に残っている体験を教えてください。

台北では、国立師範大学国語中心で毎日午前中2時間、先生と1対1で中国語をゼロから勉強しました。最初のうちは、毎日朝6時頃に起床、朝食の後、少し中国語を勉強して、学校に行き、その後は、適当に昼食を済まし、宿舎に戻り、中国語の勉強、夕食を済まし、中国語の勉強、寝るのは毎日1時すぎという生活でした。勉強のし過ぎで、留学開始から1ヶ月半が経ったところで、過労で高熱・ひどい頭痛になったこともあります。しかし、その努力のおかげで、ゼロから始めて3ヶ月で多少の中国語を話せるようになり、6ヶ月で多少の通訳ができる水準まで上達しました。私が無茶苦茶な中国語を恥じも外聞もなく話したため、台湾のルームメイトの中国語がおかしくなったというエピソードもあります。

■留学を通して得られたこと、良かったと思うことがあれば教えてください。

まず、留学を通して心を許して話せる友人達ができただけです。次に、私はもともと頑固で融通性がなく、寛容性のない人間でしたが、留学を通じて寛容性ができたことです。

■国際学部生へのメッセージ・アドバイスがあれば教えてください。

様々な人々に対して、思いやり、寛容性を持つよう心がけてください。また、学ぶ時には、貪欲に学んでください。学ぶ際に、心がけていただきたいことは、知らないことは恥ずかしいことではないですが、知らないことをそのままにすることは悔いの残ることだということです。

2. 山本 雅代 (教授)



■プロフィール

1974年3月に獨協大学外国語学部英語学科を卒業後、1979年9月にハワイ大学大学院修士課程に入学、1981年8月に修了、MA取得。1995年4月に国際基督教大学大学院博士後期課程に入学、2000年6月に修了、博士号を取得。職歴は、1982年4月より諸所の大学で非常勤講師を勤めた後、1990年4月より芦屋大学に助教授として就任。その後、桃山学院大学を経て、2000年4月より関西学院大学言語教育研究センター教授(商学部教授)に就任。2001年4月には、関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科修士課程指導教授、続く2003年4月には同後期課程指導教授などを経て、2010年4月から国際学部教授。

■留学の動機や留学先を選んだ理由・留学準備の方法を教えてください。

夫が大学院に進学するのに伴い、自分自身も「バイリンガリズム」等の学問について勉強したいという思いが強まり、ハワイ大学の大学院に入学しました。勉学面の留学準備として、TOEFLやGRE(大学院入試)などの試験がどのようなものか全く知りませんでしたので、過去問の収録されている問題集を買ってきて、問題を解くなどしてみました。幼い子どものいた私たちにとって、引越の手配、住まい探し、子どもの保育園探し、ビザの手続きなど、生活面の準備も大変でした。

■留学中の様子(授業、日常生活、現地での交流状況)や印象に残っている体験を教えてください。

授業は大変きついものでした(特に論文や図書のリーディングの量がハンパではありませんでした)。日常生活は、学生としての勉強と研究に加え、生活費を得るためのアルバイト、そして親としての子育て、生活者としての日々のあれこれと、睡眠時間をなんとか確保するのが精一杯という毎日でした。空き時間には、近くのビーチに出かけたり、同級生同士あるいは保育園に子どもを通わせている親同士で食べ物を持ち寄ってのポットラック等々をしたり、手軽に、気楽に、お金のかからないことを楽しみました。

■留学を通して得られたこと、良かったと思うことがあれば教えてください。

それはやはり、なんと言っても、本気になって勉強したという充実感でしょうか。学生であり、親であり、生活者であり、勤労者でありと一人何役もこなさねばならない中、睡眠時間をぐっと削って、必死に勉強を続け、最後にちゃんと学位を取得したという充実感です。もちろん、こうした充実感は別に留学でなくとも味わえることですが、言語も十分に使いこなせない、生活習慣にも不案内という、これまで自分の慣れ親しんだ環境とは異なる言語圏・生活圏で、自分の持てる力を精一杯発揮し、初志貫徹して得た充実感はまた格別のものです。そして、視点が複眼的になったこと、別の言い方をすると、ものを多面的に見ようとする姿勢が身についたということでしょうか。異なる歴史や文化、また生活環境を背景に、人の見方はさまざまです。その事実を前に、だから世界に紛争は絶えないのだ…ではなく、だから世界は面白いのだと思う私がいるのは、やはり留学のおかげだろうと思います。

■国際学部生へのメッセージ・アドバイスがあれば教えてください。

ここに記した私の留学体験は、学部生として、また単身で留学する皆さんのそれとはずいぶん異なるものだろうと思います。それでも、共通するところも多々あるはずですから、もし何か参考になりそうなことがあったなら、どこか頭の隅にでも留め置いてください。留学先がどこであろうとも、そこには今まで皆さんが知らなかった世界が広がっているはずですよ。大いなる好奇心と、少しばかりの思慮深さを持って、その世界に飛び込んで来て下さい。

3. 櫻田 大造 (教授)



■プロフィール

上智大学英語学科に入学し、2年後の81年3月に奨学金を得て、シアトル(Seattle University)大学政治学科に編入。(当時のTOEFLスコアはPBTで620点)2年後の83年3月にシアトル大学政治学科を首席卒業し、上智大学に復学し、84年3月に卒業。5年間で日米2つの大学を卒業。84年9月にはカナダ政府奨学金を得て、トロント大学(University of Toronto)大学院政治学研究科修士課程に入学。家の都合で途中休学したが、88年6月にはトロント大学でMA取得。その後、博士(国際公共政策、大阪大学)取得。徳島大助教授などを経て、10年4月から国際学部教授。これまでに、ニュージーランド戦略研究センター研究員を1年つとめたり、トロント大学政治学部客員教授として家族連れでトロントにも赴任経験有り。主要著書に『対米交渉のすごい国』(光文社)がある。

■留学の動機や留学先を選んだ理由・留学準備の方法を教えてください。

はっきりいって、留学があるから今の自分があり、現在の職に就くことができたと言えます。長野の公立中・高出身で、大学に入ったときから、とにかく英語圏に留学したいと燃えて、英語の勉強などしていました。その頃の上智には同じイエズス会が経営しているアメリカの大学に男子学生だけ留学できる制度があり、それによって、大学3年と4年をシアトル大で過ごすことになったのです。上智で取った単位がシアトルで認められ、編入し、2年間で卒業できました。上智の英語学科という所は、帰国子女も多く、入った時点では自分よりも英会話能力がある(特に女子)学生が多くいましたが、めげずに、英会話サークルを立ち上げたり、アメリカ人神父の先生に会話授業の補講をお願いしたり、あるいはラジオ英会話やらテレビ英会話を視聴するなど、ありとあらゆる機会を捉えて英語の勉強をしました。そのために、渡米後の授業そのものは、最初の1学期(3ヶ月)くらいは大変でしたが、その後は、努力で乗り切れました。トロントに留学した時は、『留学ジャーナル』という雑誌に駐日カナダ大使館で公募の大学院留学生を募集していて、運良く合格し、奨学生になったためです。最後の1年で修士論文を書くのにかなり時間を費やして苦労しました。

■留学中の様子(授業、日常生活、現地での交流状況)や印象に残っている体験を教えてください。

詳しくは拙著『誰も知らなかった賢い国カナダ』(講談社+α新書)に書きましたので、そちらもご参考にして下さい。シアトル大学への留学は、週2時間のバイトが義務付けられ、授業料の85%が奨学金という形で大学の経営母体が出してくれることになっていました。大学の勉強は大変でしたが、休みにメキシコなどに遊びに行ったのが良い思い出です。カナダの大学院では、バイトはなかったので、勉強に打ち込みましたし、マスターを終えてからのカナダ旅行も楽しかったです。カナダ時代の恩師からは未だに色々指導を受け、連絡を取り合っております。

■留学を通して得られたこと、良かったと思うことがあれば教えてください。

高度の英語力のみならず、北米的な考え方、生活様式、異文化ショック、政治学の知識など、全てが血となり肉となっていると思います。最初の半年はとにかくきつかったけど、「努力すれば報われる」という格言が当てはまるのが留学生活でしょう。

■国際学部生へのメッセージ・アドバイスがあれば教えてください。

留学さえすれば英語力が伸びるというのは幻想です。留学前にどの程度英語が使えるようになっているかがより大事です。一步も日本から出ずに独学でネイティブスピーカー並みに英語を使用できるようになった人も沢山いますし、何年も英語圏で過ごしていても、全く英語ができない移民もいます。全ては君たちの努力にかかっていますが、十分な準備をした上で、若いときに留学すると、斬れるような語学力習得が可能となります。

4. 長谷 尚弥 (教授)



■プロフィール

1982年に関西学院大学文学部英文学科(当時)卒業。英語教員として公立私立の中学高校に通算14年間勤めた後、1998年4月より関西学院大学理学部(現理工学部)にて英語を担当。2010年4月より国際学部教授。関学文学部に在籍中、第1期交換留学生としてアメリカ合衆国の南メソジスト大学(Southern Methodist University)に10ヶ月滞在。また、英語教員をいったん退職してアメリカ合衆国のニューヨーク州立大学オルバニー校(State University of New York at Albany)大学院に留学。また、再度高校教員として勤務していた時、兵庫県より交換教員としてアメリカ合衆国ワシントン州キャピタル高校(Capital High School)に派遣され、1年間日本語日本文化を担当した経験もあり。

■留学の動機や留学先を選んだ理由・留学準備の方法を教えてください。

大学時代の交換留学の際は、英語教員として現場に立つ前に海外で学べる最初で最後のチャンスだと思い、また、当時国際センター(現CIEC)に勤務していた職員の勧めもあって交換留学を志願しました。2度目の留学は、現場で英語を教えつつもいろいろな意味で勉強不足を感じ、これから英語教員としてやっていく上でさらに勉強することの必要性を痛感し、行けるうちにと思い決心しました。交換留学の時には別段これといった準備はしませんでした。2度目の時は明確な目的を持っていたので、英語教育に関する基本図書を出来るだけ読むように心がけました(出発直前まで働いていたので、実際にはあまり時間はとれなかったが)。

■留学中の様子(授業、日常生活、現地での交流状況)や印象に残っている体験を教えてください。

なんと言っても、最初の交換留学のことが一番印象に残っています。見るものすべてが目新しく、毎日がお祭りのようでした。特に単位を取って卒業しなければならないというプレッシャーもなかったので、興味に任せていろいろな授業をとることが出来ました。寮での生活も楽しかったです。大学での授業もそうでしたが、それ以外のことも含めてすべてが貴重な経験となりました。これが交換留学の醍醐味だと思います。また、私の場合、この経験が後の大学院留学にもつながりました。一方、大学院の時はそう悠長なことは言うておられず、休暇の時以外は、寮、教室、図書館という比較的限られた空間で日常の大半を過ごすことになりました。

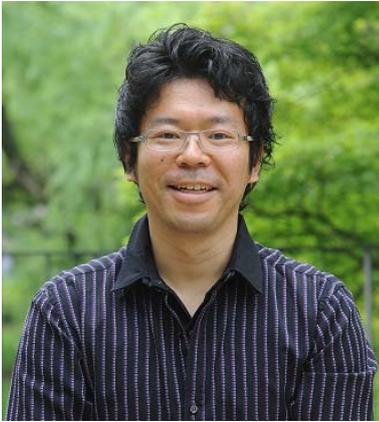
■留学を通して得られたこと、良かったと思うことがあれば教えてください。

私の場合、交換教員としての派遣も含めると、都合3回アメリカに長期滞在したことになりますが、それぞれに異なった意味で有意義でした。上にも書きましたが、一番印象に残っているのはやはり最初の交換留学です。大学の教室だけではなく、寮でのアメリカ人学生との共同生活も含め、現地での生活そのものが楽しく、思い出深い経験となりました。それはまさに異文化との遭遇でした。

■国際学部生へのメッセージ・アドバイスがあれば教えてください。

私の経験からもわかるように、留学といってもいろいろな形態があります。しかし、皆さんが国際学部でとりあえず経験するのは、短期留学、中期留学、長期留学のうちいずれかだと思います。どれに参加しようとも、素晴らしい経験となるかそうでないかは当然ながら皆さん次第です。実際に海外で学ぶ時間の長短に関係なく、出発前の準備、そして現地での心がけ次第で何倍にも素晴らしい経験が出来ると思います。国際学部では原則として2年次の留学をすべての学生に対して求めています。だからといって決して「行かされる」のではなく、それまでの国際学部での学びを通して主体的に留学の意義を発見し、自分だけの素晴らしい留学経験を得てもらいたいと思います。

5. 児島 幸治 (准教授)



■プロフィール

1995年関西学院大学大学院商学研究科に飛び級により進学。1997年博士課程前期課程修了(商学修士)、後期課程に進学するが、恩師の強い推薦により、アメリカで博士課程(Ph.D.)の取得を目指し1999年に渡米。4年半に渡るアメリカのワシントン州シアトルにあるUniversity of WashingtonのBusiness School博士課程において会計学を学び、2004年博士号(Ph.D.)取得。2004年4月より関西学院大学商学部専任講師、専門職大学院経営戦略研究科専任講師、准教授を経て、2009年関西学院大学商学部准教授、2010年4月より国際学部准教授として働いている。

■留学の動機や留学先を選んだ理由・留学準備の方法を教えてください。

中学時代に1年間親の仕事の関係でシアトルに滞在しました。素晴らしい生活環境、教育環境に恵まれ、たくさんの良い思い出と共に帰国しました。いつかまたアメリカで生活したいと考えていました。大学に入り、恩師と出会いました。University of WashingtonのBusiness Schoolに2年間客員研究員として滞在された恩師の強い推薦もあり、商学研究科博士課程後期課程に入学後すぐからアメリカで会計学を修めたいという強い思いを抱きました。TOEFLやビジネス系の大学院入学のために必要なGMATという資格試験で高得点をとれないと入学が認められないので、後期課程に入学後は資格試験で高得点を取るために専門学校で勉強しました。1年ほどかかりましたが、必要な得点を得ることができ、1999年5月にUniversity of Washingtonから合格通知をもらった時は涙が出るほどうれしかったです。ちなみに、その他に15校ほど入学願書を提出しましたが、唯一University of Washingtonに合格できました。入学してから知ったのですが、毎年、通常70~80人の募集があり、合格するのは年間3、4人の狭き門でした。ただ、入学出来れば本当に素晴らしい学習環境で自分が本当に関心のある分野の研究ができます。詳しい話はとても文章で書けないので、関心のある方は是非私に直接聞きに来て下さい!

■留学中の様子(授業、日常生活、現地での交流状況)や印象に残っている体験を教えてください。

アメリカからだけではなく、世界各地からすごい能力をもった大学院生が学びに来る場所、それがアメリカの大学院です。知的刺激はほぼ毎日受け続けました。圧倒されることもしばしばありました。ただ、同じく勉強すること、研究することに本当に一生懸命に取り組む気持ちはみな一緒でした。それが分かっていたら圧倒されることなく、マイペースで研究に取り組むことができました。周りには頼れる人がたくさんいました。一人ではとても続けることができなかつたであろう大学院生活も、米国での恩師達、励まし合った同級生、いつも励ましてくれた先輩、真剣に将来を語り合った後輩に恵まれ、無事終了することができました。息抜きに、シアトル名物の新鮮な海産物を使って料理をつくり、友人達をホームパーティーに招待したり、金曜日の夜には大学近くのパブで夜中まで語りあかしたり、友人宅で熱い議論をしたり、本当に充実した日々を過ごしました。

■留学を通して得られたこと、良かったと思うことがあれば教えてください。

素晴らしい環境で、素晴らしい能力をもったクラスメートと共に学び、共に遊び、共に成長することができました。とても知的刺激に満ちた留学生活でした。

■国際学部生へのメッセージ・アドバイスがあれば教えてください。

短期・中期・交換留学、そして大学院進学など色々な形の留学がありますが、是非チャレンジして下さい!素晴らしい経験が待っているはずですよ。

6. 上野谷 啓示 (専任事務職員)



■プロフィール

2003年、関西学院大学文学部文学言語学科(英米文学英語学専修)に入学。2年生のときに交換留学に出願するが、準備不足・TOEFLのスコア不足により、不合格となる。一時は留学自体を諦めかけたが、翌年度の交換留学の募集に再チャレンジ。見事選考に合格し、松本・土井アイリン留学助成金を受給して、2006年8月から2007年5月にかけて、アメリカのジョージア大学(UGA: University of Georgia)に交換留学。帰国後に受験したTOEICでは925点を獲得する。大学卒業後は、関西学院大学に入職。2008年4月から国際学部開設準備室、2010年4月から国際学部事務室で専任事務職員として働いている。

■留学の動機や留学先を選んだ理由・留学準備の方法を教えてください。

もともと「大学時代に留学したい」という漠然とした思いがあった私は、学内外のいろいろな留学プログラムの中から、交換留学を選択・出願しました。授業料相殺やCIECによる留学サポート等、交換留学のコストパフォーマンスや安心感に魅かれたのが一番の理由です。

留学先については、英語圏の中でも特にアメリカという国に興味を持っていたことや、留学先大学のHP、CIECに保管されてある先輩方の報告書などを読んで、大学の環境(施設・学生の雰囲気、寮・食生活の様子等)や天候などを総合的に判断してジョージア大学を志望しました。留学資金については、できるだけ親に負担をかけないように、アルバイトや月々の奨学金で貯めたお金(約140万円)と宝塚市の松本・土井アイリン留学助成金(60万円)を資金として、余った費用は帰国後の学費・生活費にあてました。

■留学中の様子(授業、日常生活、現地での交流状況)や印象に残っている体験を教えてください。

授業では、関学で専攻していた言語学や心理学系の科目の他に、ESLの授業、以前から興味を持っていた音楽系の授業などを履修し、幅広い分野にわたって自由に勉強しました。ジョージア大学では留学生に対する授業の履修制限が厳しくなく、むしろ交換留学生だからという理由で優遇される場合もあり、自分の学びたいことを存分に勉強できる環境がありました。

休日や空き時間には、現地で出会ったアメリカ人学生や世界各国からの留学生と、スポーツやパーティー等のイベントに参加したり、長期休暇にはアメリカ各地やメキシコに旅行したりして、交友・見聞を広めました。



寮のDining Hallにて

■留学を通して得られたこと、良かったと思うことがあれば教えてください。

英語力はもちろん、約10ヶ月という限られた留學生活の中で、失敗を恐れず何事にも挑戦しようと行動した積極性やチャレンジ精神を身につけました。他にも、帰国後の学業に対しての高い意識、就職活動や今後のキャリアに向けての強みなど、たくさんのかげがえのないものを得ることができました。また、現地で出会った世界中の友人とは今でも連絡を取り合い、私にとって交換留学は生涯最高の思い出となりました。



UGAのInternational Festivalにて

■国際学部生へのメッセージ・アドバイスがあれば教えてください。

実際、ここでは語りつくせないほどいろいろなことがあり、留学前は不安や迷いばかりで、留学中も決して楽しいことばかりではありませんでした。しかし今では、二度とない大学生活で、交換留学に挑戦して本当に良かったと思っています。みなさんも、同じ志を持つ仲間とともに、早めの留学計画・準備を行って、充実した海外留学を目指してください。留学で得る経験はみなさんにとっても一生の宝物となるはずです。帰国後、留学を通して一回りも二回りも成長したみなさんの姿を見るのを楽しみにしています。

VII Q&A ～留学に関する質問とその回答～

1. Q & A ～留学に関する質問とその回答～

国際学部の留学に関する質問とその回答（Q&A）を紹介します。ただし、回答内容はあくまでも“おおよその例”なので、各自でCIEC発行の「国際教育プログラム募集要項」「2011－2012 交換留学募集要項」等で必ず最新の情報を確認してください。

【①留学全般に関する Q&A】

	Q(質問)	A(回答)
1	留学についての質問・相談はどこで行えばいいですか？	<ul style="list-style-type: none"> ・学内の留学・国際教育プログラム全般に関する質問・相談・手続き →CIEC ・単位認定や国際学部留学奨励金・留学奨学金に関する質問・相談・手続き →国際学部事務室 ・留学前・留学中・帰国後の学習や進学先についての質問・相談 →国際学部の教員など ・留学前・留学中・帰国後の就職活動についての質問・相談 →キャリアセンター ・留学による教員免許取得・教職課程スケジュールへの影響に関しての質問・相談 →教職教育研究センター ・その他海外留学に関する全般的な質問・相談 →JASSO留学情報センター神戸サテライト(学外施設)
2	留学しても4年間で卒業可能ですか？	<p>本学の留学プログラムに参加する場合は、留学期間は在学年数に数えられるので、4年間で卒業が可能です。</p> <p>しかし、留学時期・種類によっては4年間で卒業できないことや履修上の特別な措置・手続きが必要な場合があるので、しっかりと履修計画・卒業計画を立て、早めの留学計画・留学準備を行ってください。</p> <p>なお、3年次や4年次に留学中で国内にいない場合など、教職課程のスケジュール上、4年間で教員免許取得が困難になる場合があります。教職課程を履修している学生は、教職教育研究センター発行の「教職課程等 履修要項2010年度入学生用」-「教職課程の主なスケジュール」を確認のうえ、教職教育研究センターで個別に相談を行ってください。</p>
3	複数の留学に参加することは可能ですか？	<p>可能です。短期留学もしくは中期留学を経て交換留学に挑戦する場合など、さまざまなケースが考えられます。ただし、原則として同一の留学プログラムに2回参加することはできず、複数の留学に参加する場合、履修や卒業に遅れをとることがあります。また、国際学部留学奨励金・留学奨学金は在学中に一人一回のみの申込・適用となります。</p>
4	留学をせずに卒業することは可能ですか？	<p>健康上の理由等で留学をせずに卒業することは可能ですが、あくまで例外としています。留学に参加しない場合、証明書等の必要な書類を添付した「留学不参加申請書」の提出が必要になります。</p>
5	希望する留学に必ず参加できますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・短期留学の場合 2年生以上であれば必ず参加できます。ただし、留学先については、各留学先大学への参加希望者が募集定員を超える場合、留学先を抽選等で決めることがあります。 ・中期留学の場合 参加資格（TOEFLのスコアや言語教育科目の単位修得状況等）を満たしていれば必ず参加できます。ただし、留学先については、各留学先大学への参加希望者が募集定員を超える場合、留学先を抽選等で決めることがあります。 ・交換留学の場合 希望すれば必ず参加できるというわけではありません。出願資格や各留学先大学が要求するTOEFL等の語学要件・学業成績等の基準を満たした全学部生・大学院生の中から、交換留学推薦者を学内で選考します。交換留学への参加を考えている方は、まずはCIECの募集説明会に参加し、早めの留学計画・準備や、学業成績・TOEFL等の対策を始めてください。
6	短期・中期・長期留学以外のプログラムに参加できますか？	<p>短期留学・中期留学・長期留学以外の国際教育プログラムへの参加も可能です。CIEC発行の「国際教育プログラム募集要項」を参考にして、自分に合ったプログラムを選択してください。ただし、プログラムの中には国際学部留学奨励金・留学奨学金が適用外のものがあり、修得した単位は原則として言語教育科目等の単位には算入されないの、注意が必要です。</p>

	Q(質問)	A(回答)
7	第1外国語で学んでいる言語以外が使われている国に留学することは可能ですか？	第1外国語(もしくは第2外国語)と留学先の言語は必ずしも同じである必要はありません。ただし、第1外国語の言語以外の国へ留学した場合、短期留学・中期留学であっても、修得した単位は第1外国語初級の単位には算入されないため、第1外国語の履修に遅れが出る場合があります。
8	私は3年生から北米研究コースに所属しようと思っています。留学先は北米じゃないといけないですか？	研究コース(北米研究コース or アジア研究コース)と留学先の地域は必ずしも同じである必要はありません。
9	1年生のときに短期留学・中期留学・長期留学に参加することはできますか？	国際学部の短期留学・中期留学は、履修基準年度が2年のため、1年生のときに参加することはできません。また、交換留学に関しても、最も早く出発するのは、2年生の春学期(2011年2~4月出発分・第1期募集分)になります。ただし、1年生であっても、「トロント大学英語研修」「蘇州大学中国語研修」等の外国語研修プログラム(国際学部の短期留学とほぼ同一内容)に参加することは可能です。2010年度、つまりみなさんが1年生のときに各外国語研修プログラムに参加する場合、留学で修得した単位は第1外国語初級の単位に算入されず、国際学部留学奨励金も適用されませんが、2年生以降に中期留学・長期留学等に参加することを考えている学生にとっては、良いファーストステップになるかもしれません。
10	3年生もしくは4年生のときに各留学に参加することは可能ですか？	・短期留学の場合 →可能です。ただし、原則として4年生の秋学期(卒業学期)に短期留学に参加することはできません。 ・中期留学の場合 →中期留学は2年生を対象としているため、原則として3・4年生が参加することはできません。中期留学の各留学先大学において、2年生だけで募集定員に満たない場合、3・4年生の参加が可能になることもあります。その場合も、修得した単位は第1外国語初級の科目にしか算入されないため、第1外国語V・VIの履修や卒業に遅れが出る場合があります。 ・長期留学(交換留学)の場合 →可能です。ただし、留学時期によっては履修・卒業に遅れが出る場合があります。
11	留学等で3年生もしくは4年生の学期中に国内にいない場合、ゼミ(研究演習科目のクラス)や卒論科目など必修科目・通年科目の履修はどうなりますか？	研究演習科目(研究演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文などの必修科目・通年科目)の履修において特別な措置が必要になります。留学等で3年生もしくは4年生の学期中に国内にいない場合は、必ず国際学部事務室や担当教員等に個別相談を行ってください。
12	2年生のときに留学する場合、ゼミ(「研究演習Ⅰ・Ⅱ」のクラス)の選択はどう行いますか？	ゼミ(「研究演習Ⅰ・Ⅱ」のクラス)の選択・選考は、原則として2年次の秋学期に行われます。2年生の秋学期に留学中で国内にいない場合は、研究演習科目のクラス選択について国際学部事務室もしくは担当教員に個別相談を行ってください。

【②交換留学に関する Q&A】

	Q(質問)	A(回答)
1	交換留学の1期、2期とは何のことですか？	交換留学の1期（Ⅰ期）、2期（Ⅱ期）とは募集時期のことを指します。今年度の募集は、第1期募集が2010年4月、第2期募集が2010年の5月に開催される募集説明会から開始されます。各留学先大学の募集時期については、CIEC発行の「2011-2012交換留学募集要項」でご確認ください。
2	長期留学をする場合、言語教育科目の履修に遅れが出ますか？	長期留学では、原則として、留学先大学で専門科目等の正規開講科目を履修し、修得した単位は帰国後に審査の上、国際学部の授業科目（国際基礎科目、国際専門科目等）の単位として認定されます。そのため、国際学部の言語教育科目（第1外国語初級・中級等の科目）の履修に遅れをとる場合がありますが、その対策として以下の2つの方法が考えられます。 ①留学先の大学でESL等の語学の授業を履修・単位修得して、帰国後に言語教育科目として単位認定してもらえるよう手続きを行う。 ②検定試験による単位認定制度を利用する。（本冊子P18「検定試験による言語教育科目の単位認定制度について」を参照）
3	交換留学に参加したいと思っています。交換留学を希望する場合は、特に早めの計画・準備が必要ということですが、まずは何から始めればよいですか？	交換留学に少しでも興味がある場合、まずはCIEC発行の「2010年度国際教育プログラム募集要項」や「2011-2012年度交換留学募集要項」を入手・熟読しましょう。そして、4月12日（月）、13日（火）、14日（水）の12:45～13:25に西宮上ヶ原キャンパスG202教室で開催される「第1期交換留学募集説明会」に必ず参加しましょう（「第2期交換留学募集説明会」は5月24日（月）、5月25日（火）の12:45～13:25に西宮上ヶ原キャンパスG202教室で開催予定）。さらに、英語受験の場合は、出願時にTOEFL ITP 480点（TOEFL iBT 54点）以上、選考に合格するには目安として550点（TOEFL iBT 80点）以上のスコアが必要となるため、まずは本学の言語教育研究センターで2010年4月24日（申込期間：4月5日～4月16日）に実施されるTOEFL ITPのテスト等を受験することを強く推奨します。
4	私は是非でも英語圏の大学に交換留学したいと思っています。選考に合格して交換留学推薦者に選ばれるにはどうすればよいですか？TOEFLのスコアさえ基準を満たしていればよいですか？	交換留学は希望すれば全員が参加できるわけではなく、各留学先大学で求められる基準（TOEFLのスコアや学業成績等）を満たさなければなりません。また、一定の単位数を修得していることや学業成績なども出願資格となっており、選考にあたっては①TOEFLや各外国語筆記試験の点数、②面接試験の点数、③学業成績の総合点で判定されます（選考方法の詳細についてはCIEC発行の「2011-2012交換留学募集要項」を参照）。たしかに、TOEFL等のスコア（語学要件）を満たすことは最重要課題の一つですが、TOEFL等の受験計画・試験対策以外にも、学業成績の対策が大切になると考えられます。
5	TOEFL iBTはTOEFL ITPと比べて受験料が高く、WritingやSpeakingのセクションもあるので、受けたくありません。交換留学（英語受験）を希望する場合、TOEFL ITPのみの受験・スコア提出でもよいですか？	交換留学（英語受験）の場合、本学との交渉により、公的ではないTOEFL ITPのスコアを利用できる留学先大学もあります。しかし、TOEFL iBTのみを利用可能とする留学先大学も多く、TOEFL ITPのスコアを利用できる留学先大学に志望が集まりやすいことが予測されるため、TOEFL iBTのスコアを取得することを推奨します。なお、2011-2012年度交換留学の最終英語スコアは、2010年4月受験以降分が有効となります。
6	交換留学を希望していますが、もし選考に合格しなかった場合は、志望を変えて中期留学もしくは短期留学に参加できますか？	選考等の結果、交換留学に参加できない場合、選択肢としては、①計画を変更して、中期留学もしくは短期留学等に申し込む、②次の募集期に再度交換留学に出願する、のいずれかが考えられます。（ただし、交換留学の時期を遅らせた場合は履修・卒業や3年次後半～4年次からの就職活動等に遅れをとることがあります。）交換留学を志望する学生は、特に早めの計画・準備・受験対策を行うとともに、不合格になった場合の留学計画を立てておく必要があります。

【③奨学金に関する Q&A】

	Q(質問)	A(回答)
1	留学に関する学内奨学金の質問・相談・手続きはどこで行えばいいですか？	国際学部留学奨励金・留学奨学金についての質問・相談・手続きは、国際学部の事務室で行います。CIECで全学部の学生を対象に募集されるその他の学内奨学金(佐伯海外留学支援奨学金、認定留学助成金等)についての質問・相談・手続きは、CIECにて行います。各奨学金の募集は、今後国際学部やCIECの掲示板等でご案内します。
2	国際学部留学奨励金・奨学金以外の奨学金には申し込みできないのですか？	国際学部留学奨励金・奨学金以外にも、CIECで全学部の学生を対象に募集される奨学金や学外の奨学金に応募することができます。ただし、一部の奨学金を除いて、奨学金を重複して受給することはできないので、注意してください。(原則として、国際学部留学奨励金・留学奨学金とその他の奨学金の両方に合格した場合、どちらか一方を選択してもらうことになります。)
3	国際学部留学奨学金の採用者はどのように決定しますか？	各年度の長期留学参加者のうち、主に学業成績が優秀な学生(上位3名程度を予定)を採用者として、採用者の募集・選考・決定等は長期留学の参加者が確定した後に行われる予定ですが、留学奨学金の採用者になるには、国際学部の授業等において非常に優秀な学業成績を取得する必要があります。
4	フランス語中期留学、国連学生ボランティアに参加する場合、奨学金はまったくもらえないのですか？	国際学部留学奨励金・留学奨学金は適用されませんが、フランス語中期留学や国連学生ボランティアの場合は、CIECで全学部の学生を対象に募集される奨学金を受給することができます。2009年度の実績として、フランス語中期留学では参加者全員に一律20万円の奨学金を、国連学生ボランティアでは参加者全員に一律30万円の奨学金を支給しています。
5	私は、学内の奨学金(日本学生支援機構、関西学院大学支給・貸与奨学金)を受給しています。留学期間中、継続して奨学金を受給することは可能でしょうか？	受給されている奨学金の種別、留学の種別や留学の期間によって、受給の有無や必要な手続きが異なりますので、留学する日が決定した時点で、学生証と印鑑を持参の上、必ず学生課(学生サービスセンター1階)に諸手続きを聞きにしてください。

【④その他の Q&A】

	Q(質問)	A(回答)
1	休学留学について教えてください。	休学留学とは、一般的に、大学を休学して学外プログラムや語学研修に個人で申し込むなどして留学することを指します。休学期間は在学期間に算入されないため、4年間で卒業はできません。なお、休学中は「休学在籍料」として1学年間:20万円、1学期間:10万円を本学に納入します。留学中に修得した単位は本学の単位として単位認定されず、国際学部留学奨励金・留学奨学金等、学内募集の奨学金も適用されませんが、幅広い範囲から自分の目的に合った留学先や留学内容を選択できるというメリットがあります。
2	長期留学(認定留学)や休学留学など、個人手配による留学についての質問・相談・情報入手はどこで行えばいいですか？	留学に関する全般的な質問・相談はCIECで行いますが、認定留学や休学留学などの個人手配による留学を希望する場合は、神戸のJASSOサテライトセンターで相談するなど、学外施設の利用もおすすめします。また、インターネットのサイトや大学図書館に配架してある留学ジャーナル等や市販の書籍でもさまざまな情報を入手できますが、CIEC・国際学部の掲示板や、日本学生支援機構(JASSO)のHP等で信用性の高い最新の情報を、各自で直接確認することが大切です。
3	外国人留学生も留学に参加することはできますか？	外国人留学生は日本で学ぶことがすでに留学ですので、海外留学への参加は原則としません。しかし、外国人留学生であっても、国際学部在籍する正規学生で、参加資格を満たした場合や選考に合格した場合は、各留学に参加することができます。その場合、国際学部の留学奨励金・留学奨学金は、日本人学生と同じように支給されます。ただし、中期留学・長期留学に参加する外国人留学生は、言語教育科目(Japanese)の履修に遅れが出るなどして4年間で卒業できない場合がありますので、注意が必要です。また、パスポート取得、ビザ申請、日本への再入国に関して、特別な手続きが必要となる場合がありますので、事前にCIECで個別相談を行ってください。

【⑤CIEC・JASSOの Q&A】

この他にも、CIEC発行の「国際教育プログラム募集要項」のFAQ(よくある質問と答)や日本学生支援機構(JASSO)のHPに掲載されてあるQ&Aを参考にしてください。

○参照：日本学生支援機構(JASSO)「海外留学よくあるご質問(Q&A)」のページ

http://www.jasso.go.jp/study_a/safaq_main.htm

VIII その他・備考

1. 事前・事後講義

各留学の参加者が決定後、主に CIEC が主催するオリエンテーション・説明会（他学部生も含む各留学の参加者全員を対象）とは別に、国際学部主催の事前・事後講義（国際学部生のみを対象）が開催される予定です。内容等の詳細は未定ですが、この事前・事後講義に参加できない場合、単位の修得や国際学部留学奨励金・留学奨学金の適用が認められない場合がありますので、留意しておいてください。（事前・事後講義の詳細は、留学決定後に国際学部掲示板等でお知らせします。）

2. キャンパス内での国際交流

国際学部では、授業や留学生活以外でも、国内（キャンパス内）での国際交流を通して、普段の生活から異文化間理解を深めることができます。以下の制度やイベントをはじめ、世界各国からの教職員・留学生と積極的に交流して、日常の学生生活から異文化間理解能力・多文化共生能力を身につけましょう。

1. フジタグローバルラウンジ

FUJITA GLOBAL LOUNGE は、G 号館にある外国人留学生と交流を深める憩いの場となっています。留学生との日常的な交流以外にも、留学生 WEEK などの国際交流イベントや各種留学イベントなども開催されます。

2. コーヒーアワー

コーヒーアワーとは、世界各国から来学した教員や外国人留学生と交流するイベントで、各学期 3 回程度、西宮上ヶ原キャンパスもしくは神戸三田キャンパスにて開催されます。コーヒー・お茶やお菓子を楽しみながら自由に歓談したり、餅つき大会や餃子パーティーなどのイベントに参加したりして、外国の方と交流する良いチャンスになるかもしれません。コーヒーアワーは無料・申し込み不要・入退場自由ですので、みなさんも気軽に参加してみてください。

*2010 年度の日程等、コーヒーアワーの詳細については CIEC の HP や掲示板等でお知らせされます。

3. 日本語パートナー

日本語パートナーとは、世界各国から来学した交換留学生に対して、関学生がボランティアで、日本語学習の相手や日本での生活に速やかに慣れるためのさまざまなサポートを行う制度です。留学生との交流を通じて異文化を理解する貴重な機会にもなり、毎年 200 人を超す関学生が活動しています。

*日本語パートナーの募集は、CIEC にて年 2 回（春・秋）行われます。（詳細については CIEC に問い合わせてください。）

3. TOEFL スコア換算表

iBT	ITP	iBT	ITP	iBT	ITP
120	677	71	527-530	30-31	397
120	673	69-70	523	29	390-393
119	670	68	520	28	387
118	667	66-67	517	26-27	380-383
117	660-663	65	513	25	377
116	657	64	507-510	24	370-373
114-115	650-653	62-63	503	23	363-367
113	647	61	500	22	357-360
111-112	640-643	59-60	497	21	353
110	637	58	493	19-20	347-350
109	630-633	57	487-490	18	340-343
106-108	623-627	56	483	17	333-337
105	617-620	54-55	480	16	330
103-104	613	53	477	15	323-327
101-102	607-610	52	470-473	14	317-320
100	600-603	51	467	13	313
98-99	597	49-50	463	12	310
96-97	590-593	48	460	11	310
94-95	587	47	457	9	310
92-93	580-583	45-46	450-453	8	310
90-91	577	44	447	7	310
88-89	570-573	43	443	6	310
86-87	567	41-42	437-440	5	310
84-85	563	40	433	4	310
83	557-560	39	430	3	310
81-82	553	38	423-427	2	310
79-80	550	36-37	420	1	310
77-78	547	35	417	0	310
76	540-543	34	410-413	0	310
74-75	537	33	407		
72-73	533	32	400-403		

4. リンク集

- 国際学部

http://www.kwansei.ac.jp/s_is/

- 国際教育・協力センター (CIEC)

http://www.kwansei.ac.jp/c_ciec/

- 日本学生支援機構 (JASSO) 海外留学情報

http://www.jasso.go.jp/study_a/oversea_info.html

- 国際教育交換協議会 (CIEE) 日本代表部 (TOEFL について)

<http://www.cieej.or.jp/toefl/index.html>

- 外務省海外安全ホームページ

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

5. 備考

本冊子で紹介した内容は 2010 年 3 月現在のものであり、今後変更の可能性があります。今後の変更・修正については、国際学部の掲示板や HP 等で随時お知らせいたします。なお、本書の記載について不明な点は国際学部事務室に来室して確認してください。

国際学部事務室 事務取扱時間 (開室時間)

平日：8：50～11：30、12：30～16：50

土曜日：8：50～12：20 (一斉土休日を除く)

- *夏季・冬季休暇中等は取扱時間が変わります。その際は掲示でお知らせします。
- *日曜日・祝日については事務の取り扱いを行いません (授業を実施する日を除く)。
- *一斉土休日：5月、6月、9月、10月の第2土曜日および5月の第4土曜日